

外観品質に優れるオオバ新品種「ひたちあおば」

[要約]

オオバ新品種「ひたちあおば」は葉形や鋸歯の形状が良く、外観品質に優れる。草丈および節数は「北浦No.1」よりやや少ないが、有効茎数は「北浦No.1」よりやや多い。抽台は「現地在来系統」よりわずかに発生しやすいが「北浦No.1」より発生しにくい。

農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所

成果
区分

普及

1. 背景・ねらい

本県のオオバは、行方市を中心として周年栽培が行われており、全国第3位の生産地である。しかし、現地では系統の統一が成されていないことから、品質のバラツキが大きいことが問題となっている。そこで品質向上を図るため、品質や収量性に優れた品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「ひたちあおば」(旧系統名：ひたち1号)は、平成15年に筑波大学より分譲を受けた「青シソ-3」(長野県産)と「芳香青しそ」(福岡県産)を交配し、選抜、固定を進めた系統である。
- 2) 葉形は、整ったハート形で表面に光沢があり、鋸歯がやや深く、小鋸歯発生頻度が高い等、外観品質に優れる(図1、表1)。
- 3) 草丈は、「北浦No.1」、「現地在来系統」よりやや短く、節数は「北浦No.1」、「現地在来系統」よりやや少ない。収穫後期の有効茎数(収穫可能な葉を付ける茎の数)は「北浦No.1」、「現地在来系統」よりやや多い傾向が見られる(表2)。
- 4) 抽台は、「現地在来系統」よりわずかに発生しやすいが、「北浦No.1」より発生しにくい(表2)。
- 5) 生産者評価は、「現地在来系統」に比べて、形状、香りが良く、苦みは弱く評価が高い。収量は「現地在来系統」に比べてやや少ないが、問題にはならない程度であり、総合評価では有望という評価が多い(表3)。
- 6) 市場評価は、形状、色、照り、苦み、香り、総合評価の全ての項目において、「現地在来系統」と同等以上の評価で、特に、形状、香りの点で高い評価である。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「ひたちあおば」は平成24年2月21日に品種登録された。
- 2) 「ひたちあおば」は草勢が低下すると収量が減少するので、強度の摘葉を避け、草勢を維持する必要がある。
- 3) 種子の供給体制については、検討中である。

4. 具体的データ

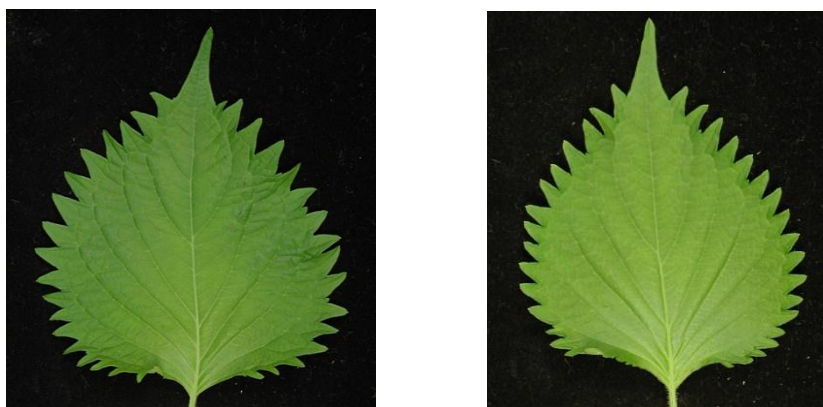


図1 葉の外観 左:「ひたちあおば」 右:「北浦 No.1」(対照)

表1 葉の形状

品種・系統	葉形	鋸歯の深さ	小鋸歯発生頻度	光沢	葉の波打	葉の厚さ
ひたちあおば	ハート形	やや深い	高	強	小	普通
北浦 No.1 (対照)	円形～長卵形	普通	中	普通	中	薄い

表2 現地圃場での生育

作型	圃場名	系統名	草丈 (cm)	節数 (節)	節間長 (cm)	有効茎数 ¹⁾ (本)	抽台率 (%)	調査日
夏作	農家 A	ひたちあおば	45.4	13.2	3.4	16.0	—	H18.8.10
		北浦 No.1	53.8	15.8	3.4	15.3	—	H18.8.17
	農家 B	ひたちあおば	58.5	11.4	5.1	26.8	—	H18.8.17
		北浦 No.1	65.8	13.3	4.9	22.0	—	H18.8.17
冬作	農家 B	ひたちあおば	67.1	11.2	6.0	11.9	49.6	H19.2.7
		北浦 No.1	76.3	12.2	6.2	10.8	68.3	H19.2.7
		現地在来	81.1	12.0	6.8	9.0	36.3	H19.2.7

夏作：H18.4.11 播種、5.16 定植 冬作：H18.9.5 播種、10.2 定植

¹⁾ 収穫可能な葉を付ける茎の数

表3 地域適応性検定試験における生産者評価 (平成 20 年夏作)

項目	評価 ¹⁾		5	4	3	2	1
形状	良い ↔ 悪い		●●○ ²⁾	●	○		
色	濃い ↔ 薄い		●○		●○		
収量	多い ↔ 少ない				●●○○	●	
日持ち	良い ↔ 悪い			○	●●●○		
病気の発生	少ない ↔ 多い			○○	●●●		
苦み	弱い ↔ 強い			●●●○○			
香り	良い ↔ 悪い		●●	●○○			
総合評価	有望 ↔ 導入困難		●○○		●●		

¹⁾ 評価は「現地在来系統」を3とした場合の相対評価

²⁾ ●および○は担当生産者5名の個別評価 (JA:● 任意組合:○)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 地域特産野菜優良種苗の育成・平成 15～17 年度・生工研野菜育種研究室
- 2) 新品種育成普及促進事業・平成 18～20 年度・生工研野菜育種研究室、園研野菜研究室